



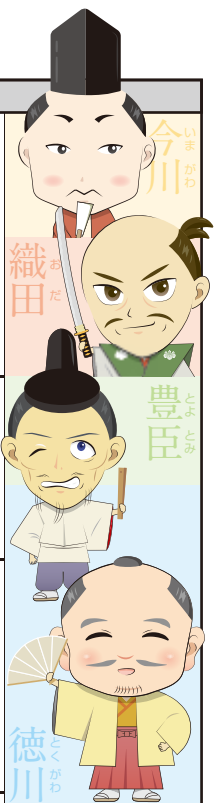


久野城年表

年代	久野城の主な城主	主なできごと
めいおう 明応年間 (1492~ 1501年)	むね たか 久野 宗隆 	1492~01年 久野宗隆、久野城を築く 1504~20年 この頃、可睡斎開かれる 1560年 久野元宗、桶狭間の戦いで討死 1572年 三方原の戦い 1581年 久野宗能、高天神城合戦に参戦 1582年 本能寺の変
てんしょう 天正18年 (1590年)	ゆき つな 松下 之綱 	1591年 之綱は山内一豊とともに、大井川河口で、軍船作りを命じられる 1600年 重綱、関ヶ原の戦いで、東軍に従軍する 1602年 松下重綱、無断で石塁築く
けいおう 慶長8年 (1603年)	むね よし 久野 宗能 	1603年 松下重綱、常陸小張(茨城県つくばみらい市)へ、久野宗能が再び城主となる 1611年 久野宗成、油山寺三重塔完成 1618年 久野城の鬼門除けとして村松神明宮に梵鐘を奉納する(現存:愛知県あま市法光寺蔵)
げんな 元和5年 (1619年)	うじ しげ 北条 氏重 	1619年 久野宗成、伊勢田丸(三重県玉城町)へ、北条氏重が城主となる 1638年 北条氏重、富士浅間宮本殿移築 1640年 氏重、下総関宿(千葉県野田市)へ、城は横須賀城預かりとなる
しょうほう 正保元年 (1644年)		1644年 城の管理が幕府へ移り、久野城は廃城となったと伝える。



久野城のブツガイド

わかりやすい解説シリーズ



出土した「三鱗紋」の瓦

編集・発行
袋井市教育委員会
TEL.0538-23-9264 [生涯学習課文化振興係]



袋井市教育委員会

く の じょう れき し 久野城の歴史

つく つか 造られてから使われなくなるまで

あらし

く の じょう は、1492～1501 (めいおん ねんかん) の間に、今川 の 家 臣 として、く の おね たか ちくじょう つた たけ だ しん げん せ 武田信玄に攻められても 落 城 することがありませんでした。お城は途中、瓦 葺 きの 建 物 が 登 場 するなど、何 度 か か た ち を 変 え ましたが、1650年 (えど じ だい の 始 め) の頃に、城 主 が い な く な っ て、使 っ れ な く な り ま し た。

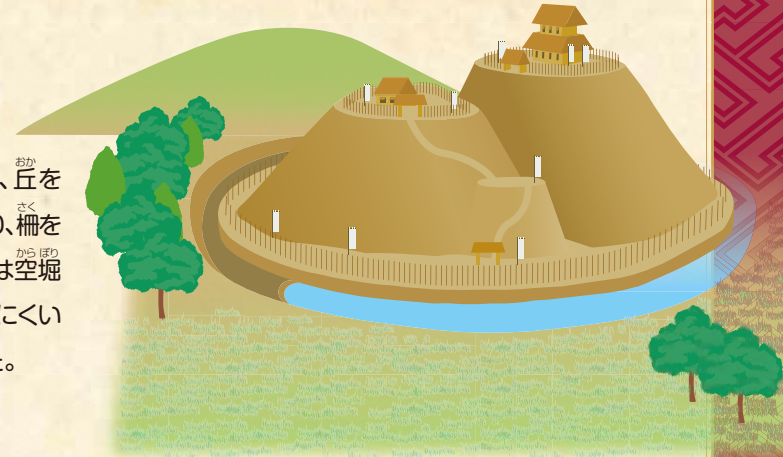
しろう ①お城のはじまり

とうかい どう み は よ まわ 東海道が見えて見晴らしが良く、周りが しちたい おか うえ しろう 湿地帯の丘の上をお城にするために、北側の やま さかい おお みぞ からぼり ほ 山との境に大きな溝(空堀)を掘りました。



つち しろう ②土のお城

さいしょ の 頃 の 久野城は、丘を 削 っ て お 城 の か た ち を 造 り、柵 を め ぐ ら し て、そ の 周 り に は 空 堀 や 塹 堀 を 掘 っ て 攻 め ら れ に く い 工 夫 を さ れ た お 城 で し た。



かわらぶ たてもの どうじょう ③瓦葺き建物の登場

まつした ゆきつな しろう 松下之綱が城主となって すぐ に 久野城は、城内の おもな 建物を瓦 葺 きに 建 っ て 替 え、大 っ き く 変 わ り ま し た。



うきよえ え 浮世絵に描かれたまつしたゆきつな 松下之綱

へいわ じ だい ④平和な時代

へいわ じ だい 平和な時代になって、ほうじょう うしじげ せんそう 北条氏重は戦争の ための 建 物 を 取 り 壊 し ま し た。そ し て、みなみ まる に 生 活 す る た め の 館 と、りょう ち おさ 領地を治めるための 仕 事 を す る 建 物 を 建 て ま し た。



ほうじょううしじげせんそうが 部分 「北条氏重肖像画」部分

お城の中をよく見てみよう

※この図は、発掘調査などの成果を元にした復元図です。(■…建物跡と推定される場所)

① 大堀切
 お城の北側には、大きな空堀があり、人の手で山を掘って造られたものです。この堀のおかげで、お城は北側から簡単に攻められないようになっています。

② 大土塁と横堀、竪堀
 お城の北側は地続きのため、敵兵が攻めやすい場所でした。北側の防衛を横堀や土塁で、大堀切とともに固めていました。



③ 南の丸と高見
 お城の中でもっとも広く、日当たりの良い場所です。地盤も良く、歴代の城主の館があった場所とされます。背後の高見と呼ばれる場所からは発掘調査で大きな建物が建っていたことが分かっています。物見やぐらなのかもしれません。

④ 二の丸の井戸
 水は食べ物以上に大切なものでした。お城で戦う場合には絶対に水が必要なので、城内に井戸を掘って水を確保していました。人間は水さえあれば1週間以上生きていけるそうです。二の丸の井戸は、こんなに高い場所なのに、これまで水が枯れたことはありません。

⑤ 外堀
 久野城は北側の一部を除いて周囲に水堀が廻らされていました。戦国時代にはその外側は湿地帯で、大変攻めにくいお城でした。この堀の幅は、火縄銃や弓などの攻撃から城を守るために有効な距離だったと考えられます。

お城をよく知るために

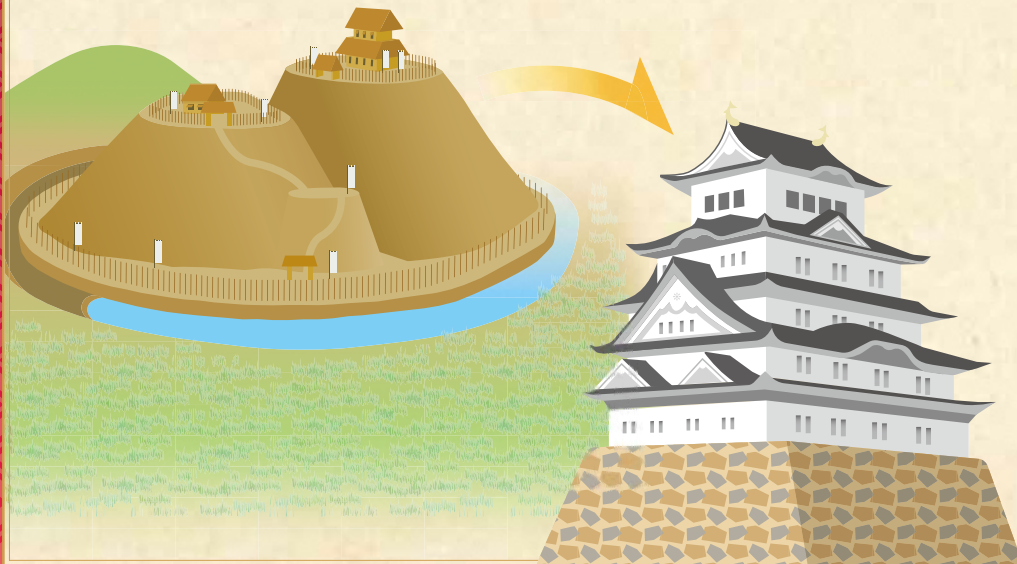


お城の「かたち」の変化

お城は、時代とともに、つくられる場所が変わります。最初は、高い山のかたちを上手に利用した「山城」がつけられますが、大勢の家来を持ち、山を削ったり、土を大きく盛ることができる技術が発達すると、平地の小高い山や丘を利用した「平山城」や「平城」がつけられました。

土を盛ったり、削ったりした「土の城」から、立派な瓦やきれいに整った石垣や塀と天守を持つようなお城へと、戦国時代から江戸時代にかけて変化します。

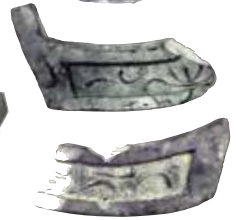
久野城は、ちょうどこの変化の途中のかたちをよく残してお城です。



瓦葺きのお城、見つかった瓦

久野城の城内から瓦が見つかるのはなぜでしょうか？

それは、豊臣秀吉の家臣、松下之綱が城主となったからです。同じ時期に秀吉の家臣が城主となった駿府城や掛川城、横須賀城、浜松城などの東海道沿いのお城が同じように豪華になっています。



くのじょうしゅうどのでさがした久野城出土軒瓦

戦国時代の食事

戦国武将たちは、一日二食、1回の食事でお米2.5合を平らげたということです。当時は午前7時～9時までの間と、午後3時から5時までの間に食事をとっていました。



石高? 1石いくら

石高とは、畑・屋敷地などの生産高を米の量で表したものです。戦国大名たちの領地の規模を面積ではなく、「石高」で表していました。要するに「石高が大きい」＝「大きな領地を支配している」ということになります。現在の価格に換算すると、一石は6万円前後です。

ちなみに久野氏はおよそ一万石前後とされているので
一万石×6万=6億円
となります。



火縄銃の威力

戦国時代の新兵器といえば何といっても火縄銃でしょう。

火縄銃の有効射程距離は50m～100mです。厚さ24mmの木板、1mmの鉄板であれば50m地点からでも貫通できるものです。